

第55回日本創傷治癒学会を開催するにあたって

第55回日本創傷治癒学会会長

兵庫医科大学形成外科

西本 聡

このたび、創傷治癒学会を、2025年12月に開催させていただき運びとなりました。会場は交通の便が良く、師走の街の華やかさを味わっていただけるよう大阪の地とさせていただきます。多くの皆様をお迎えし、対面で語り合える場を設けられますことを、心より嬉しく思っております。

今回の学会のテーマは、「きずと『つきあう』」としました。

『つきあい方』には様々な考え方があると思います。私たちはふだん、「きずを治す」ことを目指して努力しています。しかしまた、すべての傷が完全に癒えるとは限りません。中には無理に「治す」だけを追いかけるのではなく、長くつきあっていかなければならない傷もあります。少し時間軸を延ばした『つきあい方』についても考えてゆきたいと思えます。

近年、様々なデバイスや創傷被覆材など新しいものが投入されてきています。その使い方や効果などについて語り合うことはとても重要と考えます。

教科書的には手術創などは瘢痕の介在なしに一次治癒することになってはいますが、ヒトの場合、瘢痕の介在なく創傷が治癒することは実現されていません。また、医療者の手を離れた「きず」は患者さんの体にはずっと存在し続けます。医療者側は手術後の「きず」をできるだけ目立たないようにしようという取り組みが必要と考えます。

また、我々の「きず」への視点は客観的になりがちで、またそうあるべきであろうと考えますが、「きず」を持った患者さんにとっては主観的なものです。消えない「きず」と「つきあう」ことには精神的なサポートも必要でしょう。

昨今は高齢化が進んでいます。わが国の流れとして、高齢者は施設よりも在宅で過ごしてもらおうとしています。様々な制限のある在宅の場においても、あるいは在宅であるからこそ褥瘡をはじめとする創傷の管理は必要です。経済的サポートは薄いにもかかわらず、在宅でのニーズは拡大するのではないのでしょうか。

シンポジウム・パネルディスカッションのテーマは評議員の方々にアンケートをとり、アイデアを頂きました。せっかくご意見を頂きましたのに採用できなかった方にはこの場を借りてお詫び申し上げます。

「きず」との『つきあい方』には正解もゴールも見えません。だからこそ、丁寧に向き合っていく仲間の存在が、とても心強く感じられるのだと



NEWS
LETTER

日本創傷治癒学会

2025.05

No.147

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

思います。本学会が、専門や職種を越えた「仲間」に出会える場になることを願っています。

5月に演題募集を開始します。大阪の会場で、皆さまにお会いできるのを楽しみにしております。

<http://55jswh.kenkyuukai.jp/>

第55回 WOUND HEALING 2025
<http://55jswh.kenkyuukai.jp/>
日本創傷治癒学会 JSWH
The 55th Annual Meeting of Japanese Society for Wound Healing
2025年12月13日(土)・14日(日)
きずと『つきあう』
会場: 大阪大学中之島センター
Venue: OSAKA UNIVERSITY NAKANOSHIMA CENTER
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4丁目3-53
演題募集: 2025年5月7日(水)~8月1日(金)
会長: 西本 聡
Congress President: Soh Nishimoto
兵庫医科大学 医学部 形成外科
Plastic Surgery, Hyogo Medical University

WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文が Wound Repair and Regeneration の Volume33 Issue No.2 に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Library の本ジャーナルホームページの機関誌概要下にある濃緑色のナビゲーションバーより、<CONTRIBUTE> ⇒ <Author Guidelines> と進んでいただくか、以下のURLへアクセスして入手してください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/1524475x/homepage/forauthors.html>

なお、投稿方法は、ホームページからのオンライン投稿（要ログイン）となっております。

“Comprehensive analysis of keloid vasculature by tissue clearing and 3D imaging” (*Wound Repair and Regeneration*, 33:2, doi:10.1111/wrr.70015)

土肥 輝之 先生 (日本医科大学付属病院 形成外科・再建外科・美容外科)

小川 令 先生 (日本医科大学 形成外科)



漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからもあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



株式会社ツムラ <https://www.tsumura.co.jp/> 資料請求・お問合せは、お客様相談窓口まで。

医療関係者の皆様 tel.0120-329-970 患者様・一般のお客様 tel.0120-329-930 受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く) 2021年4月制作 (審)